

2022年作詞方針について

十干

(ジッカン)

いつもお聞きいただきありがとうございます。

私の場合、作曲は「作る」というよりも「できる」という感覚なのですが「産みの苦しみ」と言えばやはり作詞にあります。

次々と湧いてくるメロディに対し、何かテーマを持たないとそのうちアイデアが枯渇してしまうので、2022年は「十干」をテーマにしました。

「十干」とは古代中国で考えられた（といいつつも、特別に中国を鼻負しているわけではありません。）生命消長の循環過程を分説したものと伝えられております。

公開している作詞ノートを冊子順に「甲乙丙丁・・・」と、たまたま採番しており、そこから思いつきました。10冊を超えたら「子丑寅・・・」22冊を超えたら「甲子、甲丑、・・・」と142冊まで採番できます。でも、さすがにそこまでいかないと思います。

34ページのノートを2ページ分、糊づけ補強し使用していますので1冊で17曲分まとめられます。現在は「庚」を使用しています。

十干	読み	読み2	意味 ※ウィキペディア (Wikipedia) より	アルバム名
甲	こう	きのえ	草木の芽生え、鱗芽のかいわれの象意	青い世界
乙	おつ	きのと	“軋”に通じ、陽気のまだ伸びない、かがまっているところ	わすれない
丙	へい	ひのえ	“炳”に通じ、陽気の発揚	こもれば
丁	てい	ひのと	陽気の充溢	充溢
戊	ぼ	つちのえ	“茂”に通じ、陽気による分化繁殖	風のいぶき
己	き	つちのと	“紀”に通じ、分散を防ぐ統制作用	まとまり
庚	こう	かのえ	結実、形成、陰化の段階	結実
辛	しん	かのと	陰による統制の強化	辛
壬	じん	みずのえ	“妊”に通じ、陽気を下に妊む意	みづふ
癸	き	みずのと	“揆”に同じく生命のない残物を清算して地ならしを行い、新たな生長を行う待機の状態	待機

このままこのテーマを繰り返すかどうかは未定です。

今後ともよろしく願いいたします。

yassho